



歴史的建造物調査 — 失われた建物 —

歴史研究所では現在、座光寺地区を中心とした歴史的建造物の網羅的な調査を進めていますが、同時に取り壊しなどに伴う緊急調査も行っています。今年度調査したなかでも、すでに3件の建造物を取り壊されました。

地域に長い間根づいてきた建造物が失われるのはとても残念なことです。それらについても歴史研究所で調査を行いたいと考えていますので、身近に心当たりのある歴史的建造物がございましたら、お知らせいただきますようお願いいたします。

組合製糸「信陽館」(高森町吉田)貯蔵庫

規模は4間×3.5間、切妻造平入りで3階建の土蔵で、丸太材の湾曲をそのまま利用した躍動的な最上階の小屋組が特徴的でした。部材に「大正七年五月建之」と書かれたものがありましたが、取り壊しの際行った緊急調査によると、それ以前に建っていた2階建ての土蔵を大正期に3階建てに改造したのではないかと考えられます。2006年4月に取り壊されました。



いぎみ 五十君酒店(飯田市鼎中平)酒蔵

規模15間×6間、寄棟造、2階建の大きな酒蔵です。羽場地区にあった回り舞台を移築したと伝えられ、調査によって柱や梁などの転用材が多く確認されました。なかでも舞台正面の大梁だったと思われる長さ四間半の太い梁と、長さ4間の数本の梁が目を引きました。2階には酒造道具が多く残されていました。2006年12月に取り壊されました。



柏心寺(飯田市箕瀬町一丁目)本堂・鐘楼

浄土宗妙心寺派の寺院で、本堂の規模は10.5間×9.5間、様式や華鬘の銘から寛文年間に建てられたものとみられ、鐘楼は棟札から享保16(1731)年の建築と分かりました。どちらも板葺を棧瓦葺にするなど改造が多く認められました。向拝と外陣は東京祐天寺に移築され再利用されることとなります。2006年8月に取り壊されました。



なお、以上の詳細な調査内容は、『飯田市歴史研究所年報』第5号に掲載予定です。

建造物調査に参加して 歴史的建造物 コーディネーター 田中綾乃さん(上郷飯沼) ★活動記★

コーディネーターとして活動させていただく中で、沢山の棟造りや蚕室を見る事が出来ました。本棟造りの緩やかな屋根の勾配や正方形の平面、深い軒といったすべての特徴から、おおらかでゆったりとした下伊那の風土を感じずにはられません。

正面から見た本棟造りのかっこいい事!と言ったら秀逸です。しかし、古い建物を維持していく事は、とても大変で、どんどん取り壊されているのが現状のようです。

今後の調査に期待しつつ、貴重な機会を得られた事に感謝しています。

6 (第31講座) 2月17日(土)・18日(日)

描かれた近世都市

講師:杉森哲也さん(放送大学助教授)

「都市の時代」といわれる日本の近世には、都市の諸相を描いた屏風絵である都市図屏風が数多く制作されました。京都の市中と郊外の風俗や名所を描いた「洛中洛外図屏風」、織田信長の城下町・安土を描いた「安土図屏風」、ヨーロッパの諸都市を描いた「世界図・都市図屏風」などです。これらの作品をスライドで紹介しながら、都市を屏風絵に描くということの歴史的意味、日本とヨーロッパとの交流、近世の都市の歴史などについて考えます。

※建築士会CPD認定プログラム(1日:3単位)

- 時間 1日目(土) 13:30~17:00
2日目(日) 10:00~14:30
- ※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。
- 会場 飯田市歴史研究所(飯田市役所上郷支所庁舎) 3F会議室
- 募集人員 各講座30人

7 (第32講座) 3月17日(土)・18日(日)

中世一揆の世界

講師:久留島典子さん(東京大学史料編纂所教授)

日本中世の一揆は、百姓一揆のみとなる近世とは異なり、様々な階層において一つの目的のために盟約を結ぶことで成立していました。そのなかには宗教的一揆(一向一揆)、領主層の一揆(国人一揆)、都市民衆の一揆(土一揆)、村落の一揆(「荘家の一揆」)など多様な形態を示す一揆が存在します。こうした中世一揆の多様性と共通性を抽出しながら、近世社会に向けて、否定されていく要素、形を変えながらも引き継がれていく要素を探ります。

- 受講料 資料代として500円(2日間分)
- ※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います。(会費1000円)
- 申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、歴史研究所へお申し込みください。
- ※ファクシミリまたはEメールでお申し込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記して下さい。

月例研究会

明治期における村立小学校の運営 —座光寺村の史料から—

明治時代、村の予算の大半を占めたのは教育費でした。村にとって小学校の運営がいかに重要だったかがわかります。当時、小学校の運営に関して村ではいかなる議論がなされ、実際に小学校はどのように維持されていたのでしょうか。座光寺村を事例に、村会議事録や伍長会記録などの史料から明らかにします。今回は、明治20年代の高等科設置を中心に考えていきたいと思ひます。

- 報告者 多和田真理子 調査研究員
- 日時 2月24日(土) 午後2時~4時
- 場所 歴史研究所研修室

読書会

古島敏雄の地方史研究法に学ぶ

古島敏雄氏は農業史、社会経済史に関する業績を膨大に残す一方で、地方史研究法についても大変優れた議論を行いました。私たちが地域社会のあり方を認識する上で、その方法論は重要なヒントを与えてくれます。古島氏の論文「地方史研究法」(『古島敏雄著作集』10巻)の一部についてわかりやすく解説し、今この論文を読むことの意義を皆さんとともに考えます。

- 日時 3月24日(土) 午後2時~午後4時
- 場所 飯田市歴史研究所研修室
- 資料代 300円 ■担当 多和田雅保 研究員
- ※1週間前までにお申し込み下さい。テキストを送りますので、事前に読んでからご参加下さい。

歴研ゼミだより

12月・1月の内容

参加者のみなさんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史ゼミ 近世下伊那の民衆生活史	近現代史ゼミ 地域社会史入門—飯田町の記憶を探る—	現代史ゼミ(英語文献講読) 地域社会とグローバリゼーション
<ul style="list-style-type: none"> ■開催日 隔週火曜日 ■時間 午後7時~8時40分 ■担当 多和田雅保(研究員) 	<ul style="list-style-type: none"> ■開催日 隔週木曜日 ■時間 午後7時~8時40分 ■担当 田中雅孝(調査研究員) 	<ul style="list-style-type: none"> ■開催日 隔週水曜日 ■時間 午後7時~8時30分 ■担当 鬼塚博(研究員)
1月9日 若手組(若者組)から笹踊り復活の願い 1月23日 村に土地を持つ町人	12月14日 古島敏雄著『台所用具の近現代史』を読む 1月11日 『飯田町の暮らし』編集会議 1月25日 同上	12月6日 Nationalism and international relations 12月20日 Justice versus order 1月10日 History versus modernity 1 1月24日 History versus modernity 2

- ◆日時 3月17日(土) 午前9時～11時30分(事前の申し込みは不要)
- ◆場所 歴史研究所(飯田市役所上郷支所庁舎)3階 講義室
- ◆平成18年度の申請研究課題

- 近世における名主と村人—信濃国下伊那郡天竜川流域村を素材として—
- 明治前半期における座光寺村の中老・若者の活動
- 大正時代の青年団読書運動から現在までの「読書会」の歴史を聞き書きを中心にして調べる

- 飯田・下伊那地方におけるミチューリン農法の受容と衰退
 - 長野県の「らしさ」に関する考察—県民意識の変遷と唱歌「信濃の国」—
- ※当日発表を行わない研究もあります。



進む 座光寺の歴史資料の整理

小島稔さん(座光寺地区自治協議会長)

座光寺自治会では、受け継がれてきた座光寺の文書・民俗資料などの整理作業を、座光寺史学会の皆さんと飯田市歴史研究所の協力を頂き、平成17年度から進めている。この度、近世以降の文書資料の整理が進み、新たに整備した16の文書棚に収めることができた。

今後更に、残された軍人会・消防団・教科書関係の資料整理を進めると共に、分散保管してある民俗資料や教科書資料も歴史資料室に移し、整理展示し、研究者のみならず地域住民にも公開したいと考えている。座光寺の地域づくりの目標は、「歴史と文



「麻績の里」旧道を活かした遊歩道

化の香る、心豊かに暮らせる『麻績の里 座光寺』であり、麻績の里文化ゾーンにある麻績の館の歴史資料室の充実は、大きな喜びである。



The Hyper Consumer Society Screwed Up

鬼塚 博 歴史研究所研究員 近現代史

一昨年、以前いたダートマス大に行った。ダートマスはボストンから北にバスで2時間、ハノーバーという人口1万人(うち学生5600)の町にある。アメリカの田舎町はゴテゴテと飾り立てていないので落ち着く。百年以上前に建てられた家も修復されながら、未だに使われているし、生活も質素だ。

お世話になったアメリカ近現代史のエドゥスフォース教授を訪ねた。「今晚大学院のクラスがあるから出ないか?」"No Logo"というビデオを見て議

論するんだが」と誘われた。"No Logo: Brands Globalization Resistance"は、ブランドによってグローバルに加速する消費社会を解説したものだ。ビデオでは"bombarded"という言葉が繰り返し使われた。消費に「爆撃」されているのだ。

海兵隊で日本にいたことのある学生が、「日本には電車のつり革まで、いたるところに広告があるけど、あれはどういうことなのか?」と僕に質問した。日本の消費のあおり方はアメリカ人から見ても奇異に見えるらしい。「戦後日本は、アメリカのホームドラマなどから、あれが現実のアメリカだと思い、その消費生活を追い求めてきた。でも、それは作られたもので、実際にはアメリカを追い越してしまったのかもしれない。日本は世界で最も進んだ消費社会だと思う」と答えたのだが、分かってくれたのだろうか。

そういえば、飯田にいるカナダ人に、「どうして日本の田舎はコンクリートがあんなに多いの?」と尋ねられたことがあった。それには、アメリカとの貿易摩擦による「内需拡大」も関係しているのだけれど、込み入っていてうまく説明できなかった。



ハノーバーのメインストリート

松尾新井森本家文書調査

飯田市歴史研究所ではかねてより松尾新井(旧嶋田村)森本家文書の調査を行ってまいりましたが、昨年度さらに膨大な量の史料が発見されたため、現在も調査を継続中です。飯田藩の御仕送関係史料や明治・大正期の政界関係者との書簡類など、森本家や嶋田村のみならず、さらに広い地域についての政治・経済・文化の様子も伝える大変重要な史料です。今後目録と史料の公開を進め、調査報告書を作成して研究成果をみなさんにお伝えしたいと考えています。



『古事記伝』など森本信行(1788～1854)の国学関係書籍を収めた箱。ふたに見える貼り紙は信行筆。

歴研日誌

12月

- 1日 追手町小学校史料調査
- 2日 箕瀬岡田家史料現状記録調査
- 5日 五十君酒店酒造道具を愛宕蔵へ移動
- 8日 追手町小学校史料調査
- 9日 月例研究会「1920年代の飯田・下伊那－世界経済のなかで－」(鬼塚博研究員)
- 13日 追手町小学校史料調査、現代史ゼミ
- 14日 座光寺史料調査、近現代史ゼミ
- 17日 松尾中島邦芳さん聞き取り調査
- 16～17日 アカデミア第29講座「イタリア都市の歴史と生活文化」開催。講師は陣内秀信さん(法政大学教授)
- 21日 追手町小学校史料調査

1月

- 5～7日 県立長野図書館史料調査
- 9～12日 歴史的建造物調査(座光寺養蚕民家)
- 9日 近世史ゼミ
- 10日 現代史ゼミ
- 11日 座光寺史料調査、近現代史ゼミ
- 17日 追手町小学校史料調査
- 17～18日 歴史的建造物調査(座光寺養蚕民家)
- 20～22日 歴史的建造物調査(愛知県津島市瑞泉寺)
- 20～21日 アカデミア第30講座「近世庶民の日記を読む」開催。講師は大口勇次郎さん(お茶の水女子大学名誉教授)
- 23日 近世史ゼミ
- 24日 現代史ゼミ、追手町小学校史料調査
- 25日 歴史的建造物調査(座光寺養蚕民家)
座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 27日 月例研究会「戦後改革期農村工業の構想と実際－北澤家文書を出発点として－」(坂口正彦・國學院大學大学院博士課程)
- 29～31日 歴史的建造物調査(座光寺養蚕民家)

■ 継続調査(長期にわたり継続して行っている調査)
松尾新井森本家所蔵史料、上郷北原家所蔵史料、旧南信濃村役場文書

2月・3月の催事スケジュール

2月	2007	3月
木	1	木
金	2	金
土	3	土
日	4	日
月	5	月
火 近世史ゼミ	6	火 近世史ゼミ
水 現代史ゼミ	7	水 現代史ゼミ
木 近現代史ゼミ	8	木 近現代史ゼミ
金	9	金
土	10	土
日	11	日
月	12	月
火	13	火
水	14	水
木	15	木
金	16	金
土 アカデミア	17	土 助成研究発表会・アカデミア
日 アカデミア	18	日 アカデミア
月	19	月
火 近世史ゼミ	20	火
水 現代史ゼミ	21	水
木 近現代史ゼミ	22	木
金	23	金
土 月例研究会	24	土 読書会
日	25	日
月	26	月
火	27	火
水	28	水
	29	木
	30	金
	31	土

開所日 開所時間 午前9時～午後5時
休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日